

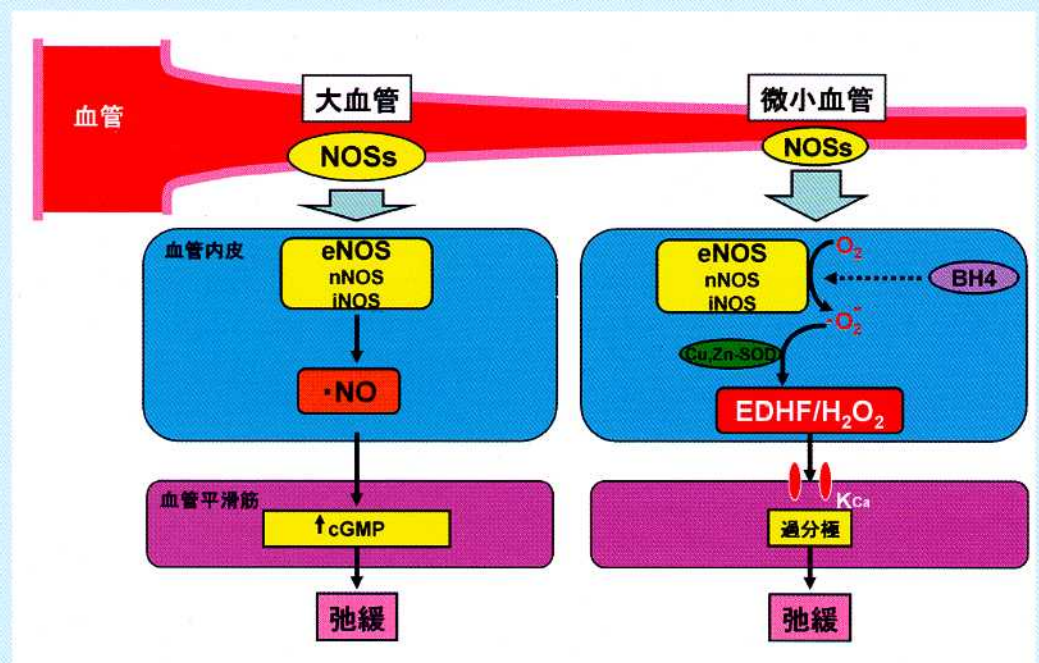


東北大学大学院医学系研究科循環器病態学

同上 循環器先端医療開発学寄附講座

同上 循環器EBM開発学寄附講座

東北大学病院 循環器内科



目 次

ご挨拶	1
教室活動総括	3
教室構成・関連病院	5
新入局員紹介	10
循環器先端医療開発学寄附講座	13
循環器 EBM 開発学寄附講座	14
診療実績	
入院患者数とその内訳	19
外来診療実績	22
虚血グループ診療実績	23
循環グループ診療実績	26
不整脈グループ診療実績	29
CCU 診療実績	31
症例カンファランス	32
病棟での活動報告	34
教室広報誌「Heart」(第9～12号)	35
研究業績	
教室の業績	45
受賞報告	80
研究費実績	81
学位(医学博士)取得者	82
星陵循環器懇話会	83
留学生近況報告	87
日本循環器学会学会誌「Circulation Journal」編集長就任	89
主催学会	
第8回日本 NO 学会	93
教育実績	
学部・初期研修医教育	99
臨床抄読会	101
仙台心臓血管研究会	105
学内リサーチセミナー	106
Work in Progress	106
社会活動実績	
東北大学病院循環器生涯教育講座	109

心電図・心エコー勉強会	111
東北大学病院市民公開講座	113
宮城県心筋梗塞対策協議会 30 周年	115
新聞・テレビ報道	
新聞・テレビ報道	119
厚生労働省班研究	125
教室行事	131
関連病院近況報告	157
関連病院業績	169

ご 挨拶

平成 20 年度の当科(医学系研究科循環器病態学分野および 2 つの寄附講座, 大学病院循環器内科)の年報をご送付申し上げます。平成 20 年度も当科にとりまして充実した一年でした。当科に対しまして, 暖かいご支援やご助言をいただきました多くの皆様に深く感謝申し上げます。

研究面では, 臨床研究が大きく発展いたしました。まず, 日本人の心不全におけるエビデンスを確立すべく 23 関連病院と行っております「CHART-2 研究」(連続 1 万名の Stage B-D の患者登録と観察研究)と「SUPPORT 研究」(高血圧を基盤とした Stage C-D の心不全患者 1,000 名に対する ARB の無作為介入研究)において順調に症例登録が進行し, それぞれ, 9,000 名, 900 名以上を登録することができました。また, 慢性心不全におけるメタボリックシンドロームの意義について解明する厚生労働省の班研究「Met-CHF 研究」(平成 18~20 年度, 全国 6 施設が参加)においても順調に症例登録が行われ, 日本人の慢性心不全におけるメタボリックシンドロームの合併率が, 一般人口の約 2 倍(男性 47%, 女性 20%)であることを明らかにしました。今後 3 年間, 継続実施していく予定です。さらに, 冠攣縮研究会(全国 66 施設が参加)において, 日循の新たな診断基準に基づく確診例が 1,500 例以上登録され, 現在データ解析中ですが, 日本人の冠攣縮性狭心症における多くのエビデンスが得られることが期待されます。また, 長年研究してきました動脈硬化性疾患・攣縮性疾患に対する選択的 Rho-kinase 阻害薬の有用性を検討する目的で, 経口長時間作用型 fasudil を用いた肺高血圧症に対する世界初の臨床治験を開始しました。さらに, これも長年かけて開発してきました重症狭心症に対する低出力体外衝撃波治療を, 厚生労働省の高度医療に申請し, 平成 21 年 5 月 12 日付けで条件付き承認となりました(現在, 細部を詰めているところです)。

基礎研究面では, 血管内皮や Rho-kinase に関する研究が発展し, 一流誌に論文を発表することができました。また, 平成 21 年度からの新たな厚生労働科研費研究として, 現行の高周波アブレーション治療の限界(心外膜病変, 血栓形成)を克服する「衝撃波アブレーション治療」の開発に, 本学の流体科学研究所との共同研究体制で着手いたしました。また, 「第 8 回日本 NO 学会(平成 21 年 5 月 9~10 日)」を主催しました。

臨床面では, 平成 20 年度は, 虚血・循環・不整脈の診療 3 グループの診療実績がさらに伸びました。心臓移植・肺移植に関しましても, それぞれ, 心臓外科・胸部外科と協力して, 実施しました。また, 東日本一円から受診される移植登録済みあるいはその候補者になる重症の心不全症例・肺高血圧症例を数多く診療しました。

教育面では, 卒前の学部教育・卒後の臨床研修・大学院教育の広い範囲で, 教室のスタッフ全員で積極的な教育活動を行い, 学生・研修医から高い評価を得ました。また, 4 月~7 月に計 12 回の「心電図勉強会」を開催し, 多くの参加者がありました(総計 1,785 名)。

社会貢献としては, 毎月「東北大学病院循環器生涯教育講座」を開講し, 地域医療関係者への教育活動を行うと共に, 9 月 13 日には, 「第 1 回東北大学病院市民公開講座-心臓病から市民を守る」を開催し, 約 1,000 名の参加者があり, 地域住民の啓発活動に貢献しました。また, 3ヶ月毎に教室の広報誌「Heart」を発刊し, 教室発の情報発信に努めました。

今後とも, ご支援・ご鞭撻の程, 何卒, 宜しく願い申し上げます。

平成 21 年 7 月 吉日

東北大学大学院医学系研究科循環器病態学分野
同 上 循環器先端医療開発学寄附講座
同 上 循環器 EBM 開発学寄附講座
東北大学病院循環器内科

下川宏明

教室活動総括（2008年4月～2009年3月）

平成20年度は、下川宏明教授が着任され4年目を迎えたが、これまで通り順調に診療・研究・教育で業績を伸ばした。

診療面では、虚血・循環・不整脈の各診療グループが、先進的診療を臨床研究や学生・研修医教育と並行して遂行した。虚血性心臓病に対する体外衝撃波治療は勿論、OCT導入によって冠動脈インターベンション治療も新たな展開を見せている。肺動脈性肺高血圧症に対する先進的薬物治療の治験も順調に進行している。不整脈領域においては、EnSite、CARTOといったマッピングシステムを2種類保有し東北地方でも有数の不整脈アブレーション施行施設に成長した。難治性心房細動・心室頻拍に対する心筋焼却術なども順調に症例を重ねており、重症心不全に対するCRT-P/D治療も増加中である。平均病床稼働率は102%に達し、稼働額は右肩上がりに増加して平成20年度も大学病院の全診療科中第2位の成績であった。11月からは循環器救急診療に24時間対応すべく、急患紹介ホットラインHEART HOTLINEを設置した。

研究面では、各研究グループが今年も多く国内外の学会でその成果を発表し、欧米の一流誌に論文が掲載された。日本最大の慢性心不全登録事業CHART-2研究および薬物介入臨床試験のSUPPORT試験も順調に登録数を伸ばした。受賞関連では、中野誠助教がThe 9th US-Japan-Asia Dialogue on Cardiovascular Diseaseポスター賞と第73回日本循環器学会YIAを、大学院生のジョラン・チチゴが第73回日本循環器学会国際留学生YIAを、大学院生の伊藤愛剛が第147回日本循環器学会東北地方会YIA最優秀賞を、それぞれ受賞した。また、5月には第8回日本NO学会学術集会を主催し盛会裏に終えることができた。

教育面では、東北大学病院心電図勉強会と東北大学病院循環器生涯教育講演会を開催した。心電図勉強会では、医学部学生・研修医・看護師ら延べ1,785名が参加して大変盛況であった。また、生涯教育講座も大変好評で、延べ639名の参加があった。医学部教育では、3次臨床修練、高次臨床修練として、それぞれ医学部5年生と6年生が各診療グループに配属され、これに初期研修医と大学院生が加わって、いわゆる屋根瓦方式による臨床教育を行った。当科では高次臨床修練の一環として、チューリヒ大学やカリフォルニア大学サンフランシスコ校などへの短期見学を奨励しており、昨年度は2名が参加して大変好評であった。

医局員の移動では、加賀谷豊が10月から卒後研修センターの特任教授に就任した。4月からの新入局員は8名で、うち6名が大学院生として教室のメンバーに加わった(2名は社会人入学)。留学中であった及川美奈子が5月に米国ワシントン大学から帰国して画像診断グループを立ち上げ、佐藤公彦が9月に米国ロチェスター大学から戻り循環グループに参加した。その他、多田智洋が4月からいわき市立総合磐城共立病院へ、縄田淳が4月から中嶋病院へ、熊谷浩司が4月から群馬県立心臓血管センターへ、越田亮司が7月から時計台記念病院循環器センターへ、佐治賢哉が9月から東北労災病院へ、橋元時忠が10月から佐賀大学へ、白戸崇が1月からいわき市立総合磐城共立病院へそれぞれ異動した。現在留学中であるのは、浅海泰栄(米国ボストン大学)と藤田央(米国ロングアイランド大学病院)である。

(文責 柴 信行)